

<b>科目名</b>	<b>J 8—1 A (日本の文化・社会 A)</b>		
<b>担当者</b>	丸山 千歌 (Maruyama, Chika)		
<b>開講学期</b>	春学期	<b>単位数</b>	1 単位

### 授業の目標

高度な日本語能力を運用して、日本の社会や文化について考え、理解を深めることを目的とする。

### 授業の内容

日本文化や社会に関わるテーマを選び、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、最後にまとめとしてレポートを提出する。

### 授業計画

日本文化や社会に関わるテーマを選び、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。

講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、最後にまとめとしてレポートを提出する。

1. 授業概要
2. トピック1-①
3. トピック1-②
4. トピック1-③

5. トピック1-④
6. トピック2-①
7. トピック2-②
8. トピック2-③
9. トピック2-④
10. トピック3-①
11. トピック3-②
12. トピック3-③
13. トピック3-④, プレゼンテーション①
14. プレゼンテーション②

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 25%, 課題・宿題 35%, 期末テスト(プレゼンテーション) 40%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

指定しない。適宜紹介する。

### その他(HPなど)

<b>科目名</b>	<b>J 8—1 B (日本の文化・社会B)</b>		
<b>担当者</b>	高嶋 幸太 (Takashima, Kota)		
<b>開講学期</b>	秋学期	<b>単位数</b>	1 単位

### 授業の目標

高度な日本語能力を運用して、日本の社会や文化について考え、理解を深めることを目的とする。

### 授業の内容

日本文化や社会に関わるテーマを選び、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、最後にまとめとしてレポートを提出する。

### 授業計画

日本文化や社会に関わるテーマを選び、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。

講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、最後にまとめとしてレポートを提出する。

1. 授業概要
2. トピック1-①
3. トピック1-②
4. トピック1-③
5. トピック1-④

6. トピック2-①
7. トピック2-②
8. トピック2-③
9. トピック2-④
10. トピック3-①
11. トピック3-②
12. トピック3-③
13. トピック3-④, プレゼンテーション①
14. プレゼンテーション②

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 25%, 課題・宿題 35%, 期末テスト(プレゼンテーション) 40%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

指定しない。適宜紹介する。

### その他(HPなど)

科目名	J8—1C（日本の文化・社会C）		
担当者	丸山 千歌（Maruyama, Chika）		
開講学期	秋学期	単位数	1単位

### 授業の目標

日本の社会や文化、特にビジネスやサービスに関連したトピックを取り上げ、それらの知識を獲得すると同時に、高度な日本語文型や語彙を増やす。

### 授業の内容

「日本の企業風土」「日本的経営」「日本型サービス」をトピックとして取り上げ、それぞれについて知ると同時に、それらのトピックを語る際に使われる語彙や文型について学び、自らがそれらを理解するのみでなく、使えるような課題を行う。ゲストスピーカーとして招き、ゲストスピーカーからの講義を軸として授業をすすめる。

### 授業計画

「日本の企業風土」「日本的経営」「日本型サービス」それぞれの専門家をゲストスピーカーとして招き、ゲストスピーカーからの講義を軸として授業をすすめる。講義の前には事前学習として、それぞれのトピックについての基本的知識や専門的な語彙や文型を学び、講義の後には、内容理解やディスカッション、レポート作成などを実施する。事前学習、ゲストスピーカーによる講義、事後学習という流れの中で学ぶことが重要であるため、責任を持って授業に参加できる者の履修を望む。

1. 授業概要
2. 「日本の企業風土」事前学習

3. ゲストセッション①
4. 「日本の企業風土」事後学習①
5. 「日本の企業風土」事後学習②
6. 「日本的経営」事前学習
7. ゲストセッション②
8. 「日本的経営」事後学習①
9. 「日本的経営」事後学習②
10. 「日本式サービス」事前学習
11. ゲストセッション③
12. 「日本式サービス」事後学習①
13. 「日本式サービス」事後学習②
14. まとめ・振り返り

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度30%、宿題25%、小レポート(3回)45%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

指定しない。適宜紹介する。

### その他(HPなど)

ゲストスピーカーとの調整により、扱うトピックの順番を変更する可能性がある。

<b>科目名</b>	<b>J 8—2 A (日本語の諸相 A)</b>		
<b>担当者</b>	長島 明子 (Nagashima, Akiko)		
<b>開講学期</b>	春学期	<b>単位数</b>	1 単位

### 授業の目標

1つの言語としての日本語を取り上げ、他の言語と比較した場合に特徴的な日本語の側面を理解する。

### 授業の内容

擬音語・擬態語、様々な感情表現、微妙なニュアンスを表す副詞、位相や役割語など、日本語の特徴的な側面を取り上げ、それについての論文を読んだり、調査をしたりする。

### 授業計画

毎学期、日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ、それについて、論文を読んだり複数の事例に触れたりした後、ディスカッションしながら、理解を深めていく。また、学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して、より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には、テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし、さらにレポートにまとめる。

1. 授業概要、敬語
2. 配慮表現①
3. 配慮表現②
4. 配慮表現③

5. 配慮表現④
6. 擬音語・擬態語とは
7. 小説の中の擬音語・擬態語①
8. 小説の中の擬音語・擬態語②
9. 小説の中の擬音語・擬態語③
10. いろいろな分野に見られる擬音語・擬態語①
11. いろいろな分野に見られる擬音語・擬態語②
12. ブックレポート①
13. ブックレポート②
14. 最終発表

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%, プレゼンテーション 35%, レポート・宿題 35%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

指定しない。適宜紹介する。

### その他(HPなど)

授業開始後にスケジュールや内容を調整する可能性がある。

<b>科目名</b>	<b>J 8—2 B (日本語の諸相 B)</b>		
<b>担当者</b>	長島 明子 (Nagashima, Akiko)		
<b>開講学期</b>	秋学期	<b>単位数</b>	1 単位

### 授業の目標

1つの言語としての日本語を取り上げ、他の言語と比較した場合に特徴的な日本語の側面を理解する。

### 授業の内容

日本語の特徴的な側面として、若者言葉、メール文体、人の呼び方、役割語を取り上げ、それについての文章を読んだり、調査したりする。

### 授業計画

毎学期、日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ、それについて論文を読んだり、複数の事例に触れたりした後、ディスカッションしながら理解を深めていく。また、学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して、より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には、テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし、さらにレポートにまとめる。

1. 授業概要、若者ことば①
2. 若者ことば②
3. メール文体①
4. メール文体②

5. 呼称①
6. 呼称② ブックレポート
7. 呼称③ ブックレポート
8. 役割語①
9. 役割語②
10. 役割語③
11. 役割語④
12. 役割語⑤
13. 役割語 まとめ 最終発表
14. 最終発表

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%, プレゼンテーション 35%, レポート・宿題 35%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

指定しない。適宜紹介する。

### その他(HPなど)

授業開始後にスケジュールや内容を調整する可能性がある。

科目名	J8—3（日本語論文作成法）		
担当者	丸山 千歌 (Maruyama, Chika)		
開講学期	秋学期	単位数	1 単位

### 授業の目標

卒業論文や学術的な論文作成に必要とされる語彙、文型、スキルについて学び、高度な日本語論文作成能力がつくようになる。

### 授業の内容

日本語の論文の構成、スタイル、使用される語彙や接続表現、文型の特徴について学び、自らがそれらを用いて構成の組み立てや短文作成などを行う。その後、実際の論文作成を行い、実践力をつける。講義も行うが、参加者自身の論文作成に基づいた授業を行う。

### 授業計画

毎回、「論文構成」「語彙」「接続表現」などのテーマを決め、そのテーマに沿った学習および短文作成を行う。随時、論文要約なども取り入れながら、作成する文章を徐々に長く、高度なものにしていき、最終的には1つのまとまった論文作成を行う。参加者それぞれが問題意識を持ち、自分の間違いに気づき、それを修正していくスキルが身につくように授業を行う。

学術論文、卒業論文の作成に困難を感じている者には特に履修をすすめる。

1. 授業概要、研究論文を探す、論文とは何か
2. 各自が選んだ論文(担当論文)の紹介、全体構成の確認
3. 序論の構成と表現
4. 発表①、本論・結論の構成と表現

5. 本論・結論の構成と表現
6. 研究計画書を読む、自分の研究動機から研究課題を考える
7. 発表②／論文の表現：引用・参考文献の書き方
8. 先行研究を探す、参考文献メモの作成
9. 参考文献メモの作成
10. 論拠、調査方法の検討
11. 研究計画書①
12. 研究計画書②
13. 発表③
14. 振り返り

### 準備学習

準備学習については毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%、課題 30%、最終課題 40%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

浜田麻里他 大学生と留学生のための論文ワークブック（くろしお出版 1997）、北原保雄監修（独）日本学生支援機構・東京日本語教育センター 実践研究計画作成法（凡人社 2009）、クラスで適宜紹介する。

### その他(HPなど)

履修者の年次や既習内容によって進度や内容を変更する場合がある。

<b>科目名</b>	<b>J8—4（日本語論文読解）</b>		
<b>担当者</b>	丸山 千歌 (Maruyama, Chika)		
<b>開講学期</b>	春学期	<b>単位数</b>	1単位

### 授業の目標

日本語で書かれた学術論文の内容が読み取れることを目指し、日本語論文の構成、語彙などについて学ぶ。

### 授業の内容

参加者の専門に沿った学術論文を数編選び、「構成」「スタイル」「語彙」「文型」「文末表現」「引用の仕方」「参考文献の提示方法」などの点に留意しながら読む。また、読み取った内容を簡潔に要約する訓練も行う。

### 授業計画

参加者の専門ごとに、学術論文を数編ずつ選び、日本語学術論文の特徴に留意しながら読む。毎週1つの論文を読み(宿題)、その論文から読みとれる日本語論文の特徴について講義およびディスカッションを行う。論文独特の語彙や表現については、例文などを提示しながら短文作成を行う。さらに、いくつかの論文については要約を行い、読み取った内容を簡潔にまとめる練習も行う。

1. 授業概要, 論文とは, 文献検索
2. サンプル論文の分析
3. サンプル論文と各学生が持ってきた論文(モデル論文)の分析
4. 各自のモデル論文についての発表

5. 序論の構成, 先行研究
6. モデル論文の序論についての発表, 本論について
7. 本論の構成
8. モデル論文の本論についての発表
9. 結論について
10. レジユメの作り方①
11. レジユメの作り方② 参考文献リスト
12. 口頭発表のしかた, レジユメ作成
13. 担当論文最終発表①
14. 担当論文最終発表②, 振り返り

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%, 宿題・提出物など 40%, 論文のレジユメ発表 30%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

指定しない。適宜紹介する。

### その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

<b>科目名</b>	<b>J8—5A (キャリアジャパニーズA)</b>		
<b>担当者</b>	春学期：平山 紫帆 (Hirayama, Shiho)	秋学期：藤田 恵 (Fujita, Megumi)	
<b>開講学期</b>	春学期・秋学期	<b>単位数</b>	各1単位

### 授業の目標

日本での就職活動に必要な日本語やビジネスマナー、様々なスキルを学び、それが使えるようになる。

### 授業の内容

就職活動に必要な日本語に関連する様々な事柄—「エントリーシートの書き方」「自己PRの仕方」「集団面接の受け方」「個人面接の受け方」などを実践的に学ぶ。さらに、面接に行く際のマナーなどについても学ぶ。

### 授業計画

就職試験問題を数多く知るために、毎回、たくさんの問題に取り組む。効率的に授業をすすめるために、宿題としても試験問題を課し、授業中は解説や質問対応などにより多く時間を割く。個々の試験問題についての解説なども行うが、主として参加者が積極的に与えられた問題に数多く取り組み、それを通して就職試験について「知ろう」とする姿勢が必要である。

1. 授業概要 日本の就職活動
2. 自己分析① マナー対策
3. 自己分析②
4. エントリーシート
5. 自己PR①

6. 自己PR②
7. 自己PR③
8. 敬語
9. 志望動機①
10. ゲストスピーカー
11. 志望動機②
12. 面接①
13. 面接②
14. 期末テスト

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 35%, 提出物・授業内課題 35%, 期末テストまたはレポート 30%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

必要なものは授業で紹介する。

### その他(HPなど)

ゲストセッションの日は変更の可能性がある。またこれに伴うスケジュールの変更の可能性もある。



<b>科目名</b>	<b>J 8—5 B (キャリアジャパニーズB)</b>		
<b>担当者</b>	春学期：藤田 恵 (Fujita, Megumi)	秋学期：藤田 恵 (Fujita, Megumi)	
<b>開講学期</b>	春学期・秋学期	<b>単位数</b>	各 1 単位

### 授業の目標

日本独特の就職試験(主として国語分野)を突破するために必要な知識とスキルを身につける。

### 授業の内容

就職試験の国語分野, 常識分野の試験問題を数多く解き, それについての説明を受けることで, 日本の就職試験の傾向を知ると同時に, 対応スキルを身につける。

### 授業計画

就職試験問題を数多く知るために, 毎回, たくさんの問題に取り組む。効率的に授業をすすめるために, 宿題としても試験問題を課し, 授業中は解説や質問対応などにより多く時間を割く。個々の試験問題についての解説なども行うが, 主として参加者が積極的に与えられた問題に数多く取り組み, それを通して就職試験について「知ろう」とする姿勢が必要である。

1. 授業概要, 留学生の就職について
2. 同意語, 反意語, 同音異義語
3. ことわざ, 慣用句, 故事成語
4. 2語の関係, 漢字書き取り
5. 難読漢字, 間違えやすい漢字, 漢字選択, 複数の意味
6. 部首, 仮名遣い, 名言・名句, 和歌, 俳句
7. 四字熟語
8. 敬語, 文法, 手紙文
9. 文学作品
10. 短文, 中文読解
11. 文章並び替え
12. 長文読解

13. 模擬問題

14. 期末テスト

### 準備学習

必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%, 提出物・授業内課題(小テスト, 模擬問題を含む)35%, 期末テスト 35%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

指定しない。適宜紹介する。

### その他(HPなど)

学期開始後に内容やスケジュールについて調整する可能性がある。

科目名	J8—71 (ビジネス日本語口頭1)		
担当者	春学期：猪口 綾奈 (Inoguchi, Ayana) 秋学期：谷淵 麻子 (Tanibuchi, Asako)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

### 授業の目標

ビジネスで必要とされる構文レベルの日本語力(聴解, 発話)を身につける。

### 授業の内容

ビジネス場面で必要とされる構文レベルの口頭日本語能力—敬語や待遇表現—について、電話応対, 依頼, 報告, 相談, など実際の場面を設定して実践的に学び, それができるように練習する。また, プレゼンテーションの仕方についてもスキルアップを目指す。

### 授業計画

ビジネス場面で共通に求められる敬語や待遇表現について, 様々なビジネス場面を設定した上で実践的に学ぶ。「文法」の授業のような講義形式ではなく, 参加者がこれまで学んだ日本語力を総合的に使うことができるように, 参加者主体の授業をすすめる。「通じればいい」という姿勢ではなく, 「相手に対して失礼にならない日本語で話す」という姿勢で授業に臨むことが大切。そのために, 授業では, 敬語や待遇表現などの日本語の側面だけでなく, 話すあるいは相手の話を聞く際の態度についても学び, それをできるように練習する。

1. 授業概要
2. BJT聴解練習
3. 依頼
4. 電話応対①
5. 電話応対②
6. 電話応対③

7. 電話応対テスト, 提案・申し出①
8. 提案・申し出②, 説明①
9. 説明②
10. プレゼンテーション①
11. プレゼンテーション②
12. プレゼンテーション③
13. プレゼンテーション実技
14. 聴解テスト

### 準備学習

必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 20%, 授業内課題・小テスト・宿題・発表など 30%, 聴解テストおよびプレゼンテーション 50%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

米田隆介 新装版 ビジネスのための日本語 (スリーエーネットワーク 2006), 米田隆介 新装版 商談のための日本語 (スリーエーネットワーク 2006), 宮崎道子他 にほんごで働く! ビジネス日本語 30 時間 (スリーエーネットワーク 2009), 必要なものは授業で紹介する。

### その他(HPなど)

学期開始後に内容やスケジュールについて調整する可能性がある。

<b>科目名</b>	<b>J8—72（ビジネス日本語口頭2）</b>		
<b>担当者</b>	春学期：谷淵 麻子（Tanibuchi, Asako）秋学期：谷淵 麻子（Tanibuchi, Asako）		
<b>開講学期</b>	春学期・秋学期	<b>単位数</b>	各1単位

### 授業の目標

ビジネスで必要とされる談話レベルの日本語力(聴解, 発話)を身につける。

### 授業の内容

ビジネス場面で必要とされる高度な口頭日本語能力について、実践的に学び、それが使えるように練習する。また、プレゼンテーションの仕方についてもスキルアップを目指す。ビジネス日本語口頭2では、短い構文レベルではなく、交渉や苦情処理、営業などを扱う。

### 授業計画

敬語や待遇表現など、構文レベルのビジネス日本語能力を前提として、さらなるビジネス日本語能力の向上を目指す。具体的には、交渉・苦情処理・営業・会議でのプレゼンテーションなど、比較的長く、相手との複雑なインターアクションが必要とされる日本語について、実践的に授業を行うため、受身ではない、参加者の積極的な関与が望まれる。

1. 授業概要, アポイントメント①
2. BJT聴読解練習、アポイントメント②
3. 業務引継ぎ①
4. 業務引継ぎ②
5. 面談と交渉①
6. 面談と交渉②

7. クレーム対応①
8. クレーム対応②
9. プレゼンテーション①
10. プレゼンテーション②
11. プレゼンテーション③
12. プレゼンテーション実技
13. プレゼンテーションフィードバック
14. まとめ

### 準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 20%, 授業内課題・小テスト・宿題・発表など 30%, ロールプレイ(課ごと)・プレゼンテーション(最終)50%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

瀬川由美他 人を動かす！実戦ビジネス日本語会話 上級（スリーエーネットワーク 2008）、必要なものは授業で紹介する。

### その他(HPなど)

授業開始後にスケジュールや内容を調整する可能性がある。

<b>科目名</b>	<b>J8—8 (ビジネス日本語 (文書))</b>		
<b>担当者</b>	春学期:長谷川 孝子 (Hasegawa, Takako) 秋学期:長谷川 孝子 (Hasegawa, Takako)		
<b>開講学期</b>	春学期・秋学期	<b>単位数</b>	各1単位

### 授業の目標

日本でのビジネスに必要な日本語能力(読解, 作文)について学び, 使えるようになる。

### 授業の内容

日本で就職したり, 日系企業で働いたりする際に必要となるビジネス文書の読解や作成について, 具体例を挙げながら実践的に学び, 実際にビジネス文書が読め, 作れるところまで練習する。

### 授業計画

ビジネス場面で使われる様々な文書(報告書, 提案書, 依頼書など)の実例を使い, 形式や語彙, 文型などについて学ぶ。さらに, 参加者自らがビジネス文書を作成し, 学んだ語彙や文型などを使えるようになるまで繰り返し練習する。

実際の文書だけでなく, ビジネスでメールを使う際の形式やルール, マナーについても学び, 様々な場面を設定して実際にメール作成を行う。

1. オリエンテーション, 自己紹介, ビジネスメール・ビジネス文書の基本①
2. ビジネスメール・ビジネス文書の基本②
3. お知らせ(社内)
4. お知らせ(社外)
5. お知らせ(社外)
6. 送付依頼・発注
7. 納期延長依頼・通知, 在庫照会
8. 照会(商品未着/数量不足)・クレーム, お詫び
9. 社内会議
10. 講演依頼

11. 稟議書

12. 報告書

13. 紹介依頼

14. 出張報告, 振り返り

### 準備学習

必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

### 成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%, 授業や宿題などで作成する文書・メール 50%, 最終課題として提出する文書・メール 20%

### テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

### 参考文献

山辺真理子ほか ビジネスメールとビジネス文書(試用版), 必要なものは授業で紹介する。

### その他(HPなど)

授業開始後にスケジュールや内容を調整する可能性がある。